

見てみよう！歴史地震記録と旬のあいち

February 2016 vol.22

February

S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

◆ かいがらぼた

所在地：田原市堀切、日出

交通：豊鉄バス「堀切海岸」停 海側すぐ

愛知県の2つの大きな半島の東側、渥美半島の歴史は古く、縄文後期・晩期から人々が生活していました。中世には伊勢神宮領となり、伊勢神宮へ様々な供物を提供する御厨（伊勢神宮の台所）が多く造られ、いまでも伊勢神宮から下賜を受けた鳥居や御門を見ることができます。（豊橋市にある御厨神社では、安政東海地震の津波の様子を描いた絵馬を所蔵しています。2014.11 vol.7 参照）また、平安時代には窯業の一大産地となり、ほぼ全域にわたって80の古窯（瓦などを焼いた窯跡）が分布していました。当時は海上輸送を利用して伊勢や熊野をはじめ、各地に製品を送り出していたようです。

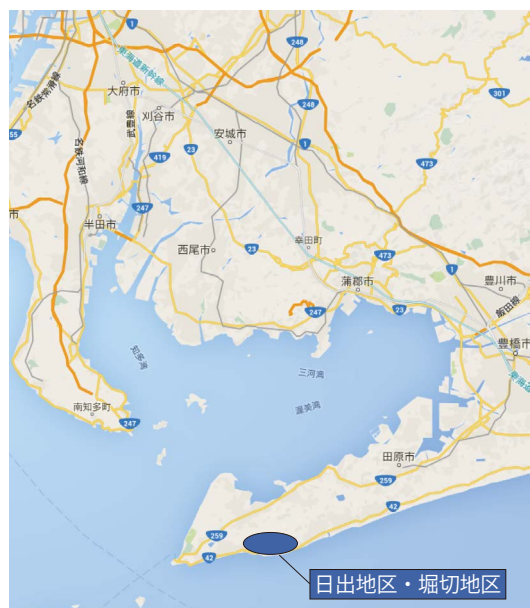
この渥美半島の先端に近い日出地区や堀切地区は、太平洋に面し、昔から漁業が盛んな地域でしたが、一方で、津波による被害に悩まされてきた地域でもあり、明応7(1498)年の明応地震、宝永4(1707)年の宝永地震では津波による浸水の深さが2mに、嘉永7(1854)年の安政東海地震では2.5mに至ったと推定されています（愛知県三河湾沿岸及び渥美半島表浜における歴史津波の痕跡調査 都司嘉宣ら 平成25年）。

安政東海地震で大きな被害を受けた後、日出や堀切の人々は津波の浸水を防ぐため、海岸に堤防を築くことを考え、土砂と一緒に貝やかきの殻を積み上げ、大変な手間と労力をかけてぼた山を築き上げました。これがかいがらぼ

たと呼ばれるものです。洪水や道路の拡張などによりぼた山の大部分は失われてしまったのですが、現在でも高く盛った貝殻や土砂の一部を見ることができます。

このかいがらぼたの地形による効果を検証したシミュレーションが、田原市東海・東南海・南海地震の地震被害想定調査（平成24年2月）で行われています。調査では、東海地震・東南海地震・南海地震のいわゆる三連動地震を想定した津波シミュレーションを行っていて、かいがらぼたを地形に組み込んだ通常の検討では、日出地区も堀切地区も浸水しない結果となっていますが、安政東海地震以前の状況を想定し、かいがらぼたを除去した地形データを作成して行ったシミュレーションでは、日出地区は（かいがらぼたができる前の）安政東海地震の浸水範囲とよく対応しており、堀切地区でも浸水が見られます。調査では、既往の研究で示された浸水範囲を正確に再現し切れてはいない、と述べられていますが、かいがらぼたがない状態では、日出地区や堀切地区で浸水が発生する可能性を示唆しており、かいがらぼたによる浸水の抑制効果が示されているとも言えます。

安政東海地震以降、渥美半島に同規模の津波が到達した記録はありませんが、先人の努力により築かれた堤防が、少なからず効果を発揮するときが今後やってくるのかも知れません。



◆ 地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感していたとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆ かいがらぼたの周辺には…

● 常光寺

所在地：田原市堀切町

交通：豊鉄バス「堀切」停 西約 700m

宝永 4（1707）年宝永地震、嘉永 7（1854）年安政東海・南海地震に関する史料が残されているなど、貴重な中世史料を所蔵して



いるお寺です。また安政東海・南海地震の際に、写真の石垣まで津波が押し寄せたといわれています。



● 若宮八幡社

所在地：田原市赤羽根町

交通：豊鉄バス「赤羽根港」停 東約 300m

若宮八幡社は、元禄 16（1703）年の津波で移転し、その後、宝暦 4（1754）年に現在地に移転したとされています（宝暦 4 年の移転理由は不明）。この場所には、嘉永 7（1854）年安政東海・南海地震、昭和 19（1944）年昭和東南海地震の際に津波が来たとされています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 渥美半島菜の花まつり

温暖な気候の渥美半島では、1月中旬から半島全体で菜の花が楽しめます。田原市では、1月中旬から3月下旬にかけて、渥美半島菜の花まつりを開催しています。（平成 28 年は 1 月 9 日～3 月 31 日）

メイン会場の伊良湖菜の花ガーデンのほか、豊橋鉄道渥美線からは線路沿いに連なって咲く菜の花を見ることができ、トヨタ自動車田原工場付近では、延長 800m、1 万平方メートルに渡って菜の花のベルトが整備されるなど、各地で工夫を凝らした菜の花畑を見ることができます。



田原市観光協会 HP より

また、3月上旬には、免々田川沿いに咲く河津桜が見ごろを迎え、菜の花・桜まつりが開催され、桜のピンク色と菜の花の黄色のコントラストが楽しめます。

2月のあいちの花

平成 28 年 2 月のあいちの花はストックです。



ストックは、日本では秋に種をまいて春に花を楽しむ、その後枯れる「秋まき一年草」として栽培されることが多く、八重咲きと一重咲き（4 弁花）とがあり、八重咲きが好まれています。ブロッコリーやカリフラワーと同じアブラナ科なので食べることもできます。

● ブレイクタイム ●

♪ 伊良湖東大寺瓦窯跡

奈良の東大寺は平安末期、平氏の南都焼き討ちにより、大仏殿はじめ伽藍の大半を焼失しました。再建を任された重源が瓦を求めたのが、備前（岡山県）の万富と渥美半島の伊良湖です。

平安時代から鎌倉時代にかけて渥美半島では窯業がさかんでした。伊良湖東大寺瓦窯跡は、昭和 41 年に初立ダムの建設に際して発見された渥美古窯跡のひとつです。出土した瓦の破片に大佛殿などの文字が刻まれていたこと、東大寺の鐘楼の屋根の葺き替えの際に、出土した瓦の文字と同じ文字が見つかったことなどから、ここで東大寺の瓦を焼いていたことが判明しました。

当地で出土した瓦は現在、田原市渥美郷土資料館に収蔵されています。



『伊良湖東大寺瓦窯跡』

所在地：田原市伊良湖町 初立池横

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会（仮称）・名古屋大学減災連携研究センター 平成 28 年 2 月）